

大衆闘争、
みんなでやらない
意味がない！

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA班新聞

新春労働講座②

講演「この間の経験とこれからの運動」 講師：寺尾勉氏（退職者の会前事務局長）



（前号からの続き）

輸送力の増強に

追いつかない保線

保線労働者は、身を削ってまで働いているのに、矢継ぎ早の複線化工事、電化工事が始まり、輸送力が増強化されたものの、工事は追いつかず線路はどんどん悪くなっています。

寺尾さんたちは職場内で「安全闘争」「告発

闘争」を呼びかけました。仲間たちには中々理解されませんでした。

列車を止めて

安全を守る闘い

「安全が確保されない線路に列車を通すことは出来ない」と、ついに発炎筒を使って列車を止める闘争を計画し、数名で実行に移します。処分も覚悟の上での行動でした。

「列車を止めることは出来

ない」と、職場では立きながら反対する人もいたこのことで、自身の中でも大変な葛藤があったことだと思います。

みんなが変わった！

多くの反対を押し切って実行された「列車停止闘争」でしたが、仲間たちの理解を深めてもらうことが出来、ひとり一人の意識も変わってきましたとのことでした。分會では総括後、この闘争の（冊子を作って配布し、更に声を集める取り組みをしました。

職場内告発闘争は、そこで働く労働者が先頭に立つ

てやる！」という言葉に重みを感じました。

仲間を増やす運動

運動は役員、活動家だけでは闘えません。活動家を作り、育てる取り組みが組織的に行なわれました。自分も旧津田沼車掌区時代に「もう一人の自分を作れ」と、先輩役員から発破をかけられたのを思い出しました。

相次ぐ触車死亡事故

JR後、触車事故が多く、当局の責任追及をすす中で、終電後の作業を勝ち取ります。が、当時の内房線は、上りと下りの終電で1時間もの差があり、会社は効率的でないという理由で、別々の作業を指示します。そんな中、ついに君津〜木更津間において、山村さん触車死亡事故が起き

てしまいました。「だからあれほど言ったじゃないか」「山村さんを返せ」と、会社への怒りが爆発した様子を、自分なりに記憶しています。

様々な集会で取り上げられた大問題は、何処かの集会で、当時の木更津保線分会の仲間が、構成詞として取り上げ、舞台上から多くの人に訴えかけたのも覚えています。この日、OBで参加した小出さんが助役の役だったような・・・

時代が変わっても

やることは同じ！

結びで寺尾さんは「今は時代が違うのも実感しているが、労働運動に関してはやることは同じ。あきらめはだめ。職場には色々な問題が山積している。仲間と繰り返し議論し合っている」と締めくくられました。

寺尾さん、ありがとうございました。

とくさん話し合っているの大切さ